

夢や希望 自信と誇り 校風と伝統

ひろがわ

☆学校教育目標☆

「夢を持ち たくましく」

心を磨き (心)
知性を高め (知)
身体を鍛え (体)
共に生きん (労)



新しい年を迎えて

校長 出村 好孝

正月も下旬になりましたが、改めまして、新年明けましておめでとうございます。この一年、子どもたちをはじめご家族の皆様にとって健康で、喜びの多い充実した年となりますよう心からご祈念申し上げます。

さて、24日間の冬休みが終わり、14日から3学期が始まりました。始業式において、次のような話をしました。

『昨年、一年間の世相を表す漢字は「令」でした。東部中学校の漢字は「輝」でした。それでは、今年の東部中学校を表す漢字は何になるか、昨年に続き、予想しました。私は今年の東部中を表す漢字は「刻」になると思います。「刻」は、様々な意味があります。①「時刻」のとき。②よく覚える、心に刻みつける。③「深刻」のきびしい。④尽くす。⑤責める、などです。何としても、「刻」になって欲しい。いや、したいと思います。ある意味目標であり、合言葉です。

しっかり自分の足下を見つめ、かけがえのない時を大切に、毎日を刻んでほしい。足跡を残してほしい。ただその行為はとても厳しいものです。生半可な薄っぺらいものであったなら、刻むことは出来ません。人に優しく、己に厳しく、しっかり歩んで足跡を刻んでいってほしい。そんな願いを込めています。この願いが初夢で終わるのではなく、正夢となるよう、今年1年、皆さんのガンバリズムに期待します。』というもので、昨年の「令和」発表のように、額に入れて私の拙い「刻」の字も披露してもらいました。

さて、教育にとって一番大切なことは『信頼関係』であると考えています。例えば、「教師と生徒」「教師と保護者」「生徒と生徒」などの信頼関係です。また、『心の響き合い』なくして教育はあり得ないとも考えています。『心の響き合い』は、お互いの信頼関係が基盤になってくるものです。「響き合う」という言葉に、遠い昔に思いをはせると、子どもの頃、夕日を眺めながら丘の上から向こうの山に向かい「ヤッホー」と大きな声で叫ぶと、すぐに向こうの山からこだまが返ってきたものです。幼心に誰かがすぐに応えてくれたものと、嬉しくて何度も繰り返したものでした。

こだまのような響き合い、打てばすぐにこだまが返ってくる。懐かしい響きです。

今世紀は、社会の在り方そのものが現在とは「非連続的」と言えるほど劇的に変わるとされています。そんな時代だからこそ、学校と保護者・地域の信頼関係や心の響き合いが必要であると強く感じています。

学校が保護者や地域に発信した情報には即座に反応し、行動を起こしてくれたら、この上ない喜びです。学校も、保護者や地域の皆さんの声には真摯に耳を傾け、誠実に対応していきたいと思っています。このような学校と保護者・地域の『心の響き合い』のある学校は、いつの世にも求められるものであり、大切にしていかなければならないことであると考えています。

次代を担う子どもたちのために、お力添えをよろしく願いいたします。

